

皆様お元気でしょうか?「解散結了」直前、本当に最後のアトリエニュースです。 [2022.09.17発行 編集担当:石津 勝]

20年間の活動を辿る

20年ですから・・・
本当にいろんなことがありました。
それぞれの胸に大切な思い出として残っていることでしょう。

2002
5月: NPO法人 Arts Planet Plan from IGA 設立登記
6月: 実技講習会・プレワークショップ/おもしろ楽器づくり
8月: 研修旅行「米子彫刻シンポジウム見学会」
8月: 造形ワークショップ1/おもしろ楽器づくり
10月: 実技講習会1/紙漉・牛乳パックと草木染め
11月: 実技講習会2/フェルト造形
11月: 伊賀の国市民活動団体交流会参加
12月: 実技講習会3/地域貨幣活用法 (不用品交換会)
1月~3月: 実技講習会4/陶芸・マイカップづくり
2月: 「子どもメッセinみえ」に出席
3月: 研修旅行「〜四国ツアー〜イサム・ノグチ庭園美術館」
3月: 春季会員作品展「春のかたち展」
3月: 造形ワークショップ2/フェルト造形入門・コンサート

2003
4月: NPO等と学校教育との連携の在り方についての実践研究事業
7月~9月: 「Artist in Residence at IGA 2003」
10月・11月: 阿保小学校壁画制作授業
11月: 子ども夢基金 DVD教材取材/見学会~三重県立美術館~
12月: 実技講習会1/陶芸・手捻り
1月: 青山中学校の協働授業「壁画制作」「粘土制作」
2月: 実技講習会2/陶芸・電動ろくろでの作陶
3月: 実技講習会3/ステンドグラスのペンダントトップ制作

2004
5月~7月: 青山小学校との協働授業 (野焼き)
6月: 風のかたち展 (レジデンス関連行事)
7月: 青山中学校3年生への進路講話
7月~9月: 「Artist in Residence at IGA 2004」
10月: 青山中学校との協働授業「アート・デイ」
11月: 青山小学校との協働授業「青小を飾ろう」
12月: 青山小・中学校特別支援教室との協働授業 (野焼き)
12月: 研修旅行「〜冬の美濃探訪〜紙漉き体験 (和紙の里会館)」
3月: 実技講習会/瓢箪から猪・オブジェ制作と猪鍋

2005
6月: 実技講習会1/草木染
8月: 造形ワークショップ/穴窯づくりに挑戦
9月~11月: 穴窯焼成/薪割り・作陶
10月: 実技講習会2/陶芸
11月~1月: 穴窯焼成/薪割り・窯入れ・焼成・窯出し
12月: 研修旅行「金沢・越中路探訪」
2月: 実技講習会3/平織

2006
5月: 「風と土のかたち」展
6月~2月: 陶芸自主活動
7月: 実技講習会1/陶芸・オカリナ制作
10月: 実技講習会2/木工芸・木工旋盤
11月: 実技講習会3/漆芸・拭き漆
12月: 実技講習会4/陶芸・ろくろ
2月: 研修旅行「アートアイランド直島で遊ぼう」
3月: 陶芸自主活動/穴窯焼成 (粘土カフェ)



2007
4月~3月: 粘土カフェ例会
7月~8月: 「Artist in Residence at IGA 2007」
7月~8月: ジュニア・シニア造形教室
8月: 実技講習会1/陶芸・ロクロに再挑戦/造形教室
9月: 「風と土のかたち」展「アーツ・フォーラム」
10月: 実技講習会2/藍染体験と大和郡山散策
12月: 実技講習会3/金属工芸・キャンドルスタンド制作
2月: 実技講習会4/ガラス工芸・トンボ玉入門講座
3月: 研修旅行「常滑の里と佐久島」

2008
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
8月: 実技講習会1/染織・組紐体験と伊賀上野散策
11月: 「風と土のかたち」展
11月: 実技講習会2/染織・草木染め
12月: 実技講習会3/ガラス工芸・パート・ド・ヴェール
1月: 研修旅行「金津創作の森・北陸探訪」
1月: 粘土カフェ・庵プロジェクト例会
2月: 実技講習会4/陶芸・穴窯焼成作品作陶会
3月: 穴窯焼成/作品持込・窯詰め・窯焚き

2009
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
6月: 実技講習会1/磁器・型づくり/作家アリエ訪問
6月: 実技講習会2/磁器・鋳込み/作家アリエ訪問
8月: 実技講習会3/楽器づくり/カホン
9月: 「風と土のかたち」展
11月: 研修旅行「徳島県神山町方面」
2月: 実技講習会4/ガラス工芸・トンボ玉 (復習編)

2010
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
7月: 実技講習会1/楽器づくり/カリンバ
8月~9月: 「Artist in Residence at IGA 2010」
9月: 「風と土のかたち」展
9月: 実技講習会2/木工芸・ナイフとブルーベリージャム
11月: 研修旅行「浜松市立秋野不矩美術館・瀬戸方面」
11月: 実技講習会3/陶芸・蕎麦猪口の絵付けと蕎麦打ち
2月: 実技講習会4/竹工芸・竹細工

2011
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
7月: 実技講習会1/楽器づくり・太鼓づくり
9月: 「風と土のかたち」展
9月: 実技講習会2/竹工芸・籠編み
11月: 研修旅行「香川県高松市方面」
12月: 実技講習会3/陶芸
2月: 実技講習会4/金属工芸・鋳器制作
3月: 穴窯焼成/窯詰め・窯焚き

2012
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
7月: 実技講習会1/松阪木綿手織り体験と市内散策
9月: 「風と土のかたち」展
9月: 実技講習会2/楽器づくり・アンター
11月: 研修旅行「西宮船坂ビルエナリー 篠山方面」
12月: 実技講習会3/バスケットリィ・籠編み
2月: 実技講習会4/陶芸・繰り込み技法

2013
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
7月: 実技講習会1/包丁研ぎ
8月: 粘土カフェ主催「薪割り合宿」
8月~9月: アーティストインレジデンス
9月: 「13 風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀」
11月: 研修旅行「瀬戸内国際芸術祭」
11月: 実技講習会2/染織・フェルト造形
12月: 実技講習会3/楽器づくり・オカリナ
3月: 穴窯焼成

2014
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
7月: 実技講習会1/総織り・糸紡ぎ
9月: 「14 風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀」
11月: 実技講習会2/楽器制作・竹の楽器
12月: 研修旅行「風と土の工芸 in 琵琶湖高島」
12月: 実技講習会3/染織・藍染
3月: 実技講習会4/絵画・水彩木版画

2015
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
7月: 実技講習会1/彫金・シルバーリング
8月~9月: アーティストインレジデンス
9月: 「15 風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀」
10月: 実技講習会2/書道・刻字
11月: 研修旅行「鳥取県倉吉市方面」
12月: 実技講習会3/籠細工
2月: 実技講習会4/楽器づくり・ペバニカ
3月: 穴窯焼成/作品持込み・窯詰め・窯焚き

2016
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
7月: 実技講習会1/楽器づくり・デジタルドゥ
8月: 風と土のふれあい芸術祭イベント 崇徳堂
8月~9月: アーティストインレジデンス
8月: 粘土カフェ・庵プロジェクト夏合宿
8月: 実技講習会2/染織・草木染め&工房見学
9月: 「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2016」
10月~1月: 穴窯焼成/作品持込・窯詰・焼成・窯出し
11月: かがぶらワークショップ
12月: 研修旅行「岡山県備前・西粟美・奈義方面」
1月: 実技講習会3/木工・チョークボード&工房見学
3月: 実技講習会4/レザークラフト

2017
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
6月~3月: クレイン三重作品展
7月: 実技講習会1/籠籠づくり
8月: 粘土カフェ・庵プロジェクト夏合宿
9月: 穴窯なかまのカタチ展
10月: 実技講習会2/楽器づくり・レインスティック
11月: 「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2017」
11月: かがぶらワークショップ
12月: 研修旅行「三河・美濃の旅」
1月: 実技講習会3/ガラス造形・フュージング

2018
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
4月~3月: クレイン三重作品展
7月: 実技講習会1/楽器づくり・竹の楽器
8月: 粘土カフェ・庵プロジェクト合同合宿
8月: 実技講習会2/柿渋づくり
9月: 粘土カフェ秋合宿
9月: 研修旅行「近江八幡方面」
10月: 「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2018」
10月: かがぶらワークショップ・実技講習会3/陶芸
2月: 実技講習会4/墨づくり

2019
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
4月~3月: クレイン三重作品展
7月: 実技講習会1/ゲーム技法のステンドグラス
8月: 粘土カフェ・庵プロジェクト合同合宿
9月: アーティストインレジデンス
9月: 実技講習会2/表具・表装体験
9月: 研修旅行「熱海・小田原方面」
10月: 「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2019」
10月: かがぶらワークショップ・実技講習会3/草木染め
2月: 実技講習会4/鍍金工房見学

2020
4月~3月: 粘土カフェ・庵プロジェクト活動
4月~7月: クレイン三重作品展
8月~10月: アーティストインレジデンス
9月: 実技講習会1/青白磁の作品づくり&工房見学
9月: 粘土カフェ・庵プロジェクト合同合宿
10月: 「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2020」
11月: 実技講習会2/吉野紙漉き&工房見学
12月: 研修旅行「初冬の吉野とアート&クラフトの旅」
12月~1月: 穴窯焼成/窯詰め・窯焚き・窯出し
2月: 造形ワークショップ/籠工芸

2021
5月: 総会 解散決議

回り道は遠かった 唄

昨年、2021年5月15日(土)の総会で、特定非営利活動法人 Arts Planet Plan from IGAの解散が決議された。そして、清算人として小生が選出された。翌週の19日には、津地方法務局に解散登記を済ませ、三重県 NPO 室にも解散届を提出した。また、官報にも解散公告を出し、爾来、解散に関わる手続きを1年以上粛々と続けてきた。

2001年からの約1年に渡る設立準備、2002年5月1日の法務局への設立登記以来、昨年まで代表理事を務めた。解散届を出して「はい、おしまい!」ではなく、それ以降、最後までご協力頂いた元事務局員の方々の手を煩わせながら、月1回程度の清算活動という名の事務処理・肉体労働に携わっている。これに時間と残金を費やし、最近、漸く終わりが見えた。

本アトリエニュースは、今迄ご支援・ご協力頂いた皆様に片づけが最終段階に近づいていることのご報告とお礼を兼ねて発行するものである。この後、全てが終われば、再度、津の法務局に出かけ、「解散結了」の登記を行い、その証をもって、県のNPO室に結了の報告をし、晴れてNPO法人 Arts Planet Plan from IGAから解放される。

本法人は、「特定非営利活動促進法 (NPO法)」ができて間もない時期に三重県青山町 (現伊賀市) で設立した最初のNPO法人であった。NPO法人とは何かという認識も不十分なまま、「Artist in Residence」事業を行うにはNPO法人を設立して運営するのが得策ではないかという話からNPO法人の運営に携わることとなった。無償・無給の完全ボランティアでの活動開始である。遣り甲斐はあるが、活動すればするだけ、時間や個人資産の持出しを長年続けた。お陰様で、今までの人生では経験することが無かった様々なことを味合わせて頂いた。この20年間で、膨大な数の文書を作り、事務局会議や実技講習会などの事業を開催した。この内、非常勤・専任を合わせ約15年は、大学での勤務を兼ねており、他にも行き掛り上、複数の芸術祭や海外との交流展などを中心となって運営していた。また、芸術教育の研究会活動なども行っていて、忙しさは筆舌では尽くし難い。

「Artist in Residence」開催に携わる上で、関連行事として展示会の開催なども含めた「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀」の主催者、のちには実行委員会事務局として、2002年から2020年までの間、その任も務めた。Artist in Residence作家さん方始め伊賀・名張などの地元の方や大阪・京都・奈良等の近畿圏はじめ東海・首都圏等の各地からの多数の表現者の方々にご参加頂いたことは感謝に堪えない。また、地元の阿保、博要、矢持の各地域始め伊賀市・名張市の皆様方にも有形・無形の様々な形でご支援頂いた。本当に有難いし、未永く記憶に残ることになると思う。「ありがとうございました!」

「出会いがあれば、別れもある」。様々な方々との貴重な出会いも数知れずあったが、鬼籍に入られた方や自然と疎遠になった方もいる。いずれの方との出会いも「一期一会」で、脳裏に残っている。全ての「出会いに感謝!」。

「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀」は2020年の開催を最後に、2021年度はCOVID19で不開催。今年も紆余曲折の後、不開催となった。実行委員会事務局が本法人から開催会場の「旧矢持小学校」がある矢持地区市民センター (矢持住民自治協議会)に移り、「風」から「土」に運営の主体が変わった。2023年以降、「土」の色・香・味が生かされた芸術祭に新しく生まれ変わることを期待したい。

法人運営に関わるまでは、法務局や県庁・市役所・市政記者クラブなどに行くことはなかったが、節目で出かけた。また、巡り合うこともなかった様々な業態や役職・立場の方々にも沢山お目に掛かれた。貴重な体験は、「人間万歳?!」そのもの。

さて、代表理事として20年の長きに渡り運営してきた当の本人も未だに十分には分かっていない。恐らく本法人の活動に長期・短期に渡り関わってくださった方々や付かず離れずの立ち位置で、本法人の周囲で過ごされた様々な方も、本法人の定款を熟読し理解した上で、活動に参加された方は殆ど居られないだろう。本法人の活動趣旨 (所謂、法人が本来目指すべき目標)に沿った活動が中心ではあったが、それと若干乖離した活動、法人維持のための主客逆転・本末転倒の活動、活動内容の軽重度合の認識差、会員の様々な勘違いの連鎖などもあり、本当に波乱万丈な20年が続いた。それでも面白・可笑しい、楽しい時間を経験できたことは、「幸せ」と呼ぶ他ない。

間も無く、清算活動が終了し、法務局に解散結了登記を済ませることができれば、滞りなく本法人は消滅し、暫くは人の脳裏の中にのみ記憶として存在の痕跡が残る。卑近な例ではあるが、最近、経験したことで言えば、ゆうちょ銀行の解約には法務局の登記簿の写しが必要だった。解約に3日掛けた。このことに限らず様々な新規の知見や経験・実体験を得た。時間やお金が無尽蔵にある訳もない中、夥しい時間と私費の捻出も少なからず要した。その分、普通の人の何倍も楽しませて頂いた。改めて感謝申し上げる。「今まで、長い間、本当にお世話になりました。お疲れ様。そして、ご苦労様でした!」

以下余談であるが・・・、1999年3月31日に20年間務めた大阪府立高校教諭を自ら辞し早期退職。某国立大学大学院の社会人院生として、2年間、関東で暮らした。修士課程修了後の制作活動の拠点としてアトリエを持つことを考え、適地を探していたところ、現在の地を紹介された。2001年3月末に完成し、アトリエとしての活用を始めた。その建物が現在、本法人の事務所として利用され、様々な実技講習会の会場にもなった。

今後、どの程度の期間、アトリエを維持できるか先行き不透明だ。20年以上の年月を経て老朽化や補修の必要な箇所も増えてきた。当然、当方の寿命や資金も限られているし、20年前と比べると体力の衰えも甚だしい。この先、人生の残り時間がどれ程あるか分からないが、与えられた時を自分の興味・関心や好奇心を満たしてくれるものやことに充てたい。得たものも大きい充実していたが、少し回り道をしたかもしれない。幼い頃の気持ち「童心」を忘れず、図工 (図画工作) や自然好きな子どもの気分で、本来の意味とは異なるが、「遊びをせんとや生まれけむ」の境地で過ごしたい。アトリエが存在する間、お近くにお越しの際には、今まで通りお気軽にお訪ね頂ければ幸いです。来るものは拒まず!の姿勢で、お待ちしております (森田 耕太郎)



粘土カフェの活動と共に



私が、NPO 法人 Arts Planet Plan from IGA と出会ったのは 2005 年、下の子供が高校生になった春のことでした。友人の個展会場で「造形ワークショップ 穴窯づくりに挑戦！」のチラシを手にした時、作陶する機会はあるも窯を築く体験はそんなにできるものではない、と思ったのです。これが、全ての始まりでした。

初めて西青山駅に降り、森田代表に会った夏の日のことは、今も鮮明です。ダイヤモンドカッターで耐火レンガを切断し、窯の屋根に登って釘を打つ、多くの仲間と共に日行った泊りがけのこの作業は、学生時代の文化祭前夜祭の大人版、子育てが一段落したばかりの私には新鮮でした。誘われるままに、翌年、法人会員となり、間もなく穴窯の維持と活用を目的に「陶芸グループ」が発足すると、主担当を仰せつかりました。『粘土カフェ』と命名しました。

森林の保全のために出る赤松の間伐材を、焼成燃料として再活用しよう！という伊賀の地ならではの趣旨を掲げていたので、間伐材を調達する交渉から、レンタカーを借りての運び込み、そして薪割りに汗を流す、という思いがけない活動が始まったのです。穴窯や窯周りの修繕・整備なども、特定の指導者を置かず、時には必要に応じてご指導を仰ぐ程度で、仲間の持っている知恵や技術を結集し協力して行なってきました。

学生ボランティアさんを募り『薪割り合宿』を行っていた頃は毎年の焼成で、活気がありました。途中から 2 年に一度となり、メンバーは入れ替わりながら高齢化は進む一方でしたが、法人解散までの 15 年間で、10 回の『穴窯焼成』を実施しました。(この間のアクシデントを記すには紙面が足りません)最後の焼成は、2021 年 1 月、コロナ感染症予防対策を講じながら行ないました。作陶会、陶芸の実技講習会、アトリエ整備のために伐採した草木や廃材を燃料とした『野焼き焼成』を 2 回、また、伊賀市に残る武家屋敷「赤井家住宅」を会場に『穴窯なかまのカタチ展』も開催しました。

書が専門の私ですが、元々工芸的な表現には興味があり、大学時代に陶芸に出会って、薪をくべたことがありました。あの時は、人生の後半で本格的な穴窯を運営することになるとは、想像もしていませんでした。車で運転中に立派な赤松の木を見ると、薪束何足分！とトッサに数える癖がつき、筆や墨を持つだけでなく、重い赤松の丸太や薪束を運び、チェーンソーも使うことになり、若い頃より力持ちになりました。焼成前になると、いくら丁寧な言葉がけをしたところで、窯いっばいの作品が集まるか、人手や資金が足りるか、などという不安が付きまとうのです。窯詰め・窯焚き・窯出しの日は「元々カレンダーから無い！と思って全て出る！」と決めていました。いろいろな事情でしたくても参加できない人もありました。また、大事な仲間を病で亡くした時には、恵まれた環境にある私の使命を痛感したものです。

窯焚きは、手探りの実験のようなものでした。原始的ともいえる穴窯や野焼きは、電気窯のように楽ではありませんが、独特の釉状・焼き色で応えてくれました。そんな手作りの陶芸の面白さを多くの方々に知っていただきたい、お金をかけず力を出し合って共に楽しみたい、という気持ちで活動した 15 年でした。失敗の繰り返しは、貴重な体験となりました。そこから多くを学びながら、苦勞の分だけ経験した感動の数々、どんな時も仲間と共にあった日々は、私の人生の宝物です。

ジャンルの違う多くの法人会員の皆様、多彩な「粘土カフェ」のメンバーや活動を通して出会った全ての方々に、感謝いたします。(田上 早百合)



思い出が…

こんにちは、芝田です。法人では一番のひよっこで、お世話になるきっかけは大学時代の講座教室後方に置かれた穴窯案内のチラシでした。その時の私はただただ美術が好きで芸術大学に進学した状態でしたが、美術を通して人と繋がるのがこんなに面白いんだと気付かせてくれたのが法人活動でした。

今は府立高校で教鞭を取っています。法人で受け取ったバトンを次の世代へパスすることができればと日々考えています。私にとって法人活動は第二の学校のような存在でした。これからもここで出会ったご縁をつなげていければと思います。関係の皆様方、ありがとうございました。



《左》一番古い法人関係の写真は、窯と滝の見学の写真でした。
《中央》研修旅行で出かけた瀬戸内国際芸術祭。職場の同僚さんが今年行かれるとのことで、おすすめスポットを聞かれました。こうやっているんな輪が広がっていくといいですね。
《右》風と土のふれあい芸術祭もたくさんお世話になりました。色んな作品を展示させていただきましたが、図工室の棚で展示させてもらったこの作品が、一番お気に入りです。(芝田 真美)

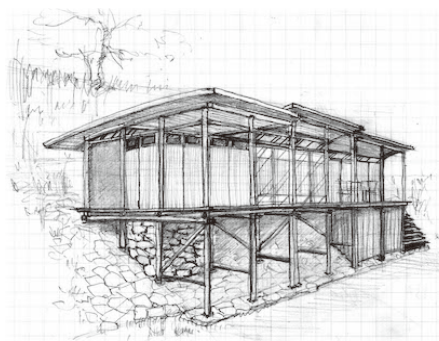
完成はいつ？

「より楽しく」「より快適に」…。アトリエを利用する会員やボランティアの人々にとって、アトリエがひとつの理想郷、そして遊び場として充実させていく施設整備のプロジェクト。主旨に賛同する参加者によってつくることによって、つくる喜びを持ちつつ、魅力あるものができるのか？ そんな思いで 15 年程前から取り組んでいた、プリコラージュ的手法（その場で手に入るものを寄せ集めて新しい物を作る自分達で作る）のプロジェクト。庵をつくるという目標だけでなく、穴窯建屋の補修や材木置場の屋根工事などアトリエ周辺の整備や修繕も行って来ました。

庵の制作については、理想的なスケッチから始まったのですが、石垣の場所は薪棚に奪われたり、ツリーハウスは工事が危険で諦めたり、結局、今の倉庫前の所につくることになって、法人会員や大学生（卒業生）と少しずつ継続して来ました。

ここに来て法人活動は解散ということになりましたが、このまま途中では地主さんにとっても迷惑なことになり、許しを得て月 1 回ペースで完成までは続けることになりました。

これまでに、あまりアトリエに行けなかったと少し後悔している人、たまには懐かしく行ってみたい人、庵をつくるということと共に訪れてみませんか？ オーナーにお願いしてみますので、どうでしょうか？ (石津 勝)



特定非営利活動法人 Arts Planet Plan from IGA

特定非営利活動法人 Arts Planet Plan from IGA

「地球芸術星化計画！？」 何ができるのだろう。

20 年という活動期間を経て、昨年、法人は閉じられることになりました。

はじめは、NPO って何？ 法人名が長くて、なかなか書けない。

(いつからか、APPfI の略称も使われるようになりましたが)

知らない地で、はじめましての方々も多い中、全てが手探りでスタートしていました。

思い返すと、次から次へ。あんなこと、こんなこと、あったなあと。

なかなか一言では言い表せません。

定例となっていく活動や地元の方々との交流。

少しずつかたちが変わったものもありますが、どれをとっても一人でできるものはなく、

事務局員として、いつも、企画・運営と参加の両面を体験させていただきました。

「やってみたい、見てみたい、出会ってみたい・・・」

何事もそこから始まっていたのではないのでしょうか。

すっかり忘れていたことも数多くありますが、同時に、多くの人やことやものに触れたのだと、あらためて気がつきました。

本当にたくさんのひと・もの・ことに出会いました。

その中で生まれた何か。それが何であるか、分かりません。

人とのご縁、何かをした経験、手にしたもの・・・

それらはかたちあるもの、ないもの様々ですが、

また、つながり、ひろがっていくように感じています。

関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。

人が生きて存在している、その中で、何か表現すること、手を動かすこと、それを味わうこと・・・

その楽しみがあるとよいなと思っています。

そして、何かを表現すると意気込まなくても、生きていること自体がアートなのだと。

地球芸術☆化計画 続行します。どうぞご期待ください！

(森田 佳子)



“See you somewhere again…”